



日本赤十字社
救急法・幼児安全法・健康生活支援講習

ボランティア指導員 柏崎 章子 さん

野菜作り、視覚障がい者のための点字、聴覚障がい者の手話通訳や、クラフトバッグ作り、刺身こんにゃく作り、そして日赤の講習の指導など、様々なことにチャレンジしながら過ごしています！

日赤との出会い 命を救ったとっさの行動

父の教えを胸に行動したことで 日赤との出会いがあった

私が日赤の指導員になったきっかけは、友人の死でした。友人が亡くなった後は塞ぎ込みがちでしたが、一歩踏み出し、日赤の救急法講習会に参加しました。

もしこの一歩を踏み出していなければ、どのような道に進んでいただろうと、ふと思う時もあります。

これらの考えの原点は、父の「章子、足元だけを見るな。先を見る」という言葉が大きく影響しています。

自分なりの解釈ですが、『将来を見据えて行動を起こせ』という意味と考えています。この父の教えがあったからこそ様々な事に気づき、友人の死をきっかけに日赤と出会うことができたのだと強く感じています。

とっさの行動で 命を救うことができた

私は鹿沼市の手話通訳者としても活動しております。令和5年3月、聴覚障がい者協会の旅行があり手話通訳者として参加しました。旅行中、和やかな食事のひとつが進む中、不意に食堂の方が「洗面所で具合の悪い男性がいます」と慌てたようすで声をかけて来ました。私は急いで洗面所へかけつけました。救助にあたったのは私ともう一人の方でした。

うつ伏せの状態だったため、すぐに119番通報、AEDの手配などを指示しながら、もう一人の方と協力して男性を慎重に仰向けにし、反応と呼吸の確認

をし、心停止であることを確認。私はすぐに胸骨圧迫を実施（コロナ禍のため、胸骨圧迫のみを実施）しました。

時間がどれくらい経過したのかはわからないほど、私はひたすら胸骨圧迫を続けました。消防隊員が到着し、「反応なし、死戦期呼吸である」旨を告げました。隊員の方は私に「医療従事者ですか」と尋ねてきました。私は「日赤の指導員です」と答えました。

倒れた男性の方は救急車が病院に向かう途中で意識が戻ったとのことで、救急隊員や医師からは「初期の手当が迅速で的確だったために意識が戻った」との話がありました。その連絡を聞いた時、緊張から解き放たれたからなのか、私は脱力感に襲われました。それだけ私は無我夢中で救助にあたっていたのだと感じました。

意識が戻った男性は、病院に2週間ほど入院し、今はお元気に過ごされています。

命を救うことができた経験を 日赤の講習で伝える

このような経験があり、指導の際には必ず「反応なし」「普段どおりの呼吸でない」場合には、『迷わず胸骨圧迫を実施して下さい』と声を大にして伝えています。

今後も自分ができる範囲で日赤の講習に携わり、少しでも多くの方々に一次救命処置や応急手当を伝えていこうと思います。



講習受講をご希望の方は、こちらから

とちぎの赤十字

創刊号

2023 秋

日本赤十字社栃木県支部だより



写真:「災害に備える活動」医療救護訓練の様子

P.02 支部広報誌の創刊メッセージ

P.02~P.03 **“特集記事”** 「男体山登拝大祭」で臨時救護活動を実施
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(高等部)を開催
赤十字キッズプログラムを開催

P.04 **“寄稿”** 日赤との出会い、命を救ったとっさの行動

支部広報誌を発刊しました!

日本赤十字社栃木県支部では、令和5年度より支部広報誌を作成することとなりました。皆さまからの支援への感謝の気持ちや寄付の用途、事業報告（栃木県内でどのような活動をしているのか）をお伝えしたいと思います。今後は年2回「県民の皆さまに赤十字を身近に感じてもらう広報」をコンセプトに発刊を予定しております。

創刊号では今年の夏の事業と赤十字ボランティアとして活躍している柏崎章子さんからの寄稿をもって刊行いたしました。

日本赤十字社栃木県支部に温かいご支援とご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



日本赤十字社栃木県支部

特集記事 赤十字は こんなこともやっています



救護活動

「男体山登拝大祭」で臨時救護活動

7月31日～8月1日の2日間、男体山登拝大祭臨時救護活動を実施しました。

「男体山登拝大祭」は、1230年の歴史がある日光二荒山神社が主催する祭事です。この登拝大祭の期間に限り夜間の登山が可能となり、日光男体山の頂上でご来光を拝むことを目的としています。コロナ禍で夜間の登山は中止となっていたため、4年ぶりの開催となりました。

県内各赤十字病院救護班員、接骨・整骨災害救護奉仕団及び看護奉仕団のご協力のもと、要所に救護所を設置し、自衛隊や警察と連携しながら、夜間の登山における傷病者発生時の対応に当たりました。

数年ぶりの夜間登山となりましたが、各救護所では、脚の軽い捻挫への応急措置や疲労による痙攣へのマッサージ、擦過傷の手当てなど軽症の処置が数件発生したものの、幸いにも下山困難なほどの中等から重症の傷病の発生はありませんでした。



傷病者への手当て



山頂で安全祈願を受ける班員

宿泊研修

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(高等部)を開催

8月2日～4日、塩谷町自然休養村センターにおいて、栃木県青少年赤十字指導者協議会の共催により、「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」を開催しました。今年度は、4年ぶりに2泊3日の宿泊型研修となりました。

高校生25名が参加し、リーダーとして必要な自主・自立の精神を身に付け、赤十字や青少年赤十字に関する知識・技術を集中的に学習しました。

フィールドワークでは、「暗夜行路」を体験。「暗夜行路」とは、目の不自由な人の気持ちを体験することを目的とし、複数人のグループで目隠しをしながら、ロープを頼りに20m程度を歩きます。

宿泊型研修を活かした他校の生徒の交流も盛んに行われ、有意義な3日間となりました。



赤十字を勉強中



“暗夜行路”の体験



上空から撮影

体験活動

赤十字キッズプログラムを開催



オリエンテーションの様子



避難時持ち出し品を考え中



上手に圧迫できるかな

8月5日、とちぎ福祉プラザを会場に、「赤十字キッズプログラム2023」を開催しました。開催にあたり、栃木県内の小学生を対象に参加者を募集し、児童・保護者合わせて約80名の参加がありました。

プログラムでは、救急法（心肺蘇生・AED）や非常食の体験、防災知識を学ぶゲームなどを楽しみながら行い、「命を大切にすところ」や「防災・減災」への理解を深めたようでした。